



ほっぽん

2024.06

195
認定 NPO 法人
子ども発達支援センター・就労継続支援B型事業所ほっぽん
まちづくりボランティアセンター・フードサポーターセンターひゅーぽん
〒731-0102 広島市安佐南区川内 6-28-15
Phone:082-831-6888/Mail:info@hullpong.jp

川口隆司

心地よい風の吹く四月 私たちと保護者・ご家族との 楽しい一年が始まりました



心地よい風の吹く4月下旬、ひゅーぽんに通われている児童発達支援のひよこ組と放課後デイサービスのきつ組、就労継続支援B型事業所のほっぽんの通所児者、保護者・家族とスタッフが集い、園庭で交流会（BBQ）を開催しました。

積極的に食器や材料を準備して下さるお母さん、暑い中ずっと立ちっぱなしでみんなのお肉を焼いて下さるお父さん、この日のために「BBQ Tシャツ」を着てきて下さったり、焼肉のタレを持ってきて下さったり、保護者・家族の皆さんも一緒になって楽しく過ごす時間です。途中の新人スタッフ紹介コーナーでは、得意のトランペットの披露がありました。カープの応援歌「それ行けカープ（若き鯉たち）」が響くと、みんな体を揺らしたり、手拍子をしたり、大きな声で歌ったり…。あつという間に会場全体はひとつとなり大きく盛り上がりました。その後会場では、きつ組とひよこ組とそのきょうだいが大好きなマシュマロと一緒に焼いている姿も見られました。大人のみなさんはというと、お母さんの趣味の話や、スタッフの呼び名の由来など、いろいろな話があちこちで花開いていました。ゆつたりとした時間の中で、お互い新しい一面を感じながら交流が深まったように感じ

「かんぱーい！」
きつ組のお父さんの
乾杯の音頭で始まった保護者交流会

ます。

なごりが尽きない中、時間はあっという間に過ぎ締め時間に。「とても楽しい時間を過ごすことができました。また次回の行事も楽しみにしています！」ほっぽんの大御所!?のお父さんが会を締め括ってくださいました。さらに片付けも、みんなの力で一瞬のうちに終わることが出来ました。

次の保護者交流会は冬です。今回参加が難しかった保護者や家族の皆さんとも一緒に楽しみたいと思いました。

こうした保護者・家族の方の積極的な協力や一体となって楽しもうとして下さる姿はひゅーぽんで月に1回実施している地域食堂（みんなのおいでや）の運営や、通所児者の運動会への参加や裏方の協力、地域向けのお祭りなどのイベントの企画協力を、保護者の方に積極的に参加していただいているにやってきました。これまでの関係性があるからなのだと感じました。

ひゅーぽんの様々なイベントや行事では、ひよこ組ときつ組の子どもたちが追いかけてくっついて一緒に遊ぶ姿や、世代を超えて保護者やご家族の方と話している姿が見られます。また、卒業した子どもたちがイベントに来て、成長した姿を見せてくれることでもあります。ひゅーぽんを巣立って

からもつながりが切れず、お互いを気にかける関係があることを嬉しく思うと同時に、これからもつながりが続いていくといいなと思いました。

私たちは、日常のかかわりを大切にしつつ、幼児期から学齢期そして成人期までの長い間、共に歩んでいきたいと思っています。そして、そんな皆さんと一緒に幸せを生み出していきたいと願っています。その幸せを生み出す力は、私たちの思いに共感して一緒に歩んでくださる皆さんの人となつくるものだと思っています。

今回のような世代を超えた交流の機会をこれからも大切に、地域にも広げ、さまざまなかたちで人がつながり合う場を作っていきたいと思えます。



www.hullpong.jp

Message...



地上の星

「2023年12月28日を持ちまして、8年間続けてまいりました『矢野の家』の活動を終了することといたしました。」そのお知らせはあまりにも突然でした。オープンスペースづくり、『地域・子ども食堂』等を通して多世代交流を实践されていた『矢野の家』（安芸区矢野西）とは活動を始められて間もない頃からの出会いだったのではないかと思います。代表の上（うえ）さんは「地域の居場所での出会いから、世代を超えたつながりが生まれ、家族のような支え合いが生まれている。特別なことをするのではなく、できる人ができる事を行い自然に役割として担い、役割があることで、輝き、生きがいを持ちながら楽しい暮らしにつながっていく。これが矢野の家スタイルであり、来訪される方が自然に作り上げてきたスタイルでもある。」といつも目を輝かせて話されていました。「地域の中でこのスタイルが少しずつ広がり始め、『できる事でお手伝いさせて欲しい』とありがたい声をかけてもらうことが増えてきた。関わってもらうことで、地域課題を知ってもらう機会となり、また新たにできる事が広がっている。身近な人を見て支えるという点では、病後の方のお宅に、ごはん提供や見守りを兼ねたごはん作り、家事手伝いで訪問し大変喜ばれている。」という活動成果を聞かせていただいた時は、心の底から「すごいな」と感じました。

今年1月20日に開催された「矢野の家」の最終イベント「ありがとう会」では、雨にもかかわらず大人から子どもまで会場に入りきれないほどの人が集い、豚汁とおむすびを食べながら別れを惜しまました。ギターを弾く人、食事提供をする人、食べる人、カフェでまどろむ人、おもちゃなどのバザー物品に心奪われる子どもたち、にぎやかで、笑顔があふれ、そしてなによりもあたたかでした。古民家を改修したその場所はまさに矢野の地にある、ぬくもりの通う『家』でした。この『家』がなくなることは地域に住む人たちにとって大変大きな損失だったに違いありません。上さんは、こうしたつながりが生まれることの大切さ、そのつながりが生む創造性や豊かさについてよく知ってらっしゃる方でした。一方で、地域にその自然な役割を生み、支え合いにつなげるには、継続的な活動が必要であり、その継続性を維持するにはそのための努力、労力、資金が必要なものもよくご存知でした。逡巡されたあげく、自立した運営をめざし「協同労働」の道を選択されました。広島市も「地域における高齢者の働く場の創出と課題の解決、地域コミュニティの再生」を目的に「協同労働」促進事業を高らかに歌い、そのパンフレットにはいつも「矢野の家」が紹介されていたほどです。「労働」とい

というからは、労働者のやりがいや志の裏で低賃金労働化が当たり前になってはならないといわれています。しかし、実際広島市内の「協同労働」ではどれぐらいの団体がきちんと最低賃金以上の給与を保証されているのでしょうか。私はその実態について知りませんが、少なくとも上さんは「協同労働」を選択されて以降、「自立した運営」と「給与保証」を大切にされながら、いつも忙しそうに早朝から夜遅くまで動き回っていらっやいました。一般的に、ボランティア活動、自発性に基づく活動は継続性が弱点といわれています。手弁当の活動に継続性を求めることには無理があるからです。しかし、弱い強いかかわらず、現社会は継続性を持って自主的に支えあう仕組みである「共助」を求められることがますます当たり前になってきたことを感じます。一方で、「公助」はというと、そのサービスの量や範囲はだんだん「セコク」なっています。介護保険料は高騰していきつつも、支える人たちの報酬はそれに見合ったものにはなっておらず、結果、従事者もどんどん減少してきています。やりがいやプライドが満たされない現場になってきていることを感じます。今強調すべきは「共助」だけなのではないかと。今回の特集でもあるように「地域共生型社会」の実現に向けての一つの仕組みとして「重層的支援体制整備事業」が始まります。「共生」は「支援」で成り立っていくのか？上さんは「従来の子育て支援、若者支援、高齢者支援という縦割り支援でなく、すべてがつながり合う横割りのお互い様支援が生まれ効果を生みだしている。」とご自身の活動を振り返っていらっやいます。「共助」いや、私たちなりにいうと「支えあって生きること」は、これからの社会にとって必要なあり方であることは間違いありません。しかし、そうであるならば、そのささえる仕組みや持続の

あり方を真剣にきちんと議論しなくてはならないと改めて思います。地域の人たちが紡ぐ「支えあい」の場には多くの志ある人がつどい、「儲かる」ことや「営利」を超えた「思い」や「意思」で活動をしています。改めて紹介するまでもなく、こうした活動は全国各地で多様に行なわれています。国民のためにいいながら私腹を肥やし、過ちを認め自らを律することすらできない残念な政治家のみなさんは、いったどちらを向いてお仕事をされているのかといいたくなります。だから余計に、こうした「地上の星」とも言える人たちが現場を去られる、去らざるを得ない姿を見るとやるせない気持ちになるのです。「お金がすべて」という国にならないように、「希望」や「夢」を感じられる国だと実感できるように、民の「魂」がこもった「活動」や「支えあい」こそを大切に、進んで協働とともに新しい仕組みを創造していく国へと舵を切らないとこの国は立ちゆかない気がします。「共生」社会は、国や行政が作る福祉計画や規格化されたサービスの範囲だけでは決して生まれません。人々がふれあい、まじりあい、お互い様の感覚で支えあい、成長し合う活動や場があることであたたかな血が流れていくのです。既存の地縁組織に加え、新たな発想、手段でのつながりの場づくりの必要性を感じています。官民が協働して汗を流すことができれば、この「重層的支援体制整備事業」も、もしかするとその実現のヒントや経験値を生む場になるかもしれません。「矢野の家」を立ち去ろうとした時、上さんが「これを」と2升炊きの「炊飯器」を託してくださいました。この炊飯器が活躍するたびに、私たちは、「矢野の家」の想いや歴史に思いを馳せ、受け継ぎ、未来を見据えながら光を放ちながら歩んで行こうと考えるのです。

「地域共生社会」と私たち その1

相談支援専門員 西廣弥希
うるとのほし特集チーム

このニュースレターを音声で聴いていただけるようになりました！
しかも、音声ならではの仕掛けつきです。ぜひ、こちらからどうぞ



みなさん「地域共生社会」という言葉を聞いたことがありますか？「地域共生社会」とは、簡単に言うと一人ひとりが生きがいや役割をもち、助け合いながら共に生き暮らしていくことのできる地域や社会のことです。そこには、「支える側」「支えられる側」という関係、世代や分野を超えたつながりが期待されています。



行政の縦割りの制度も実現を阻みます。さらに既存の福祉サービスだけでは支え手として不十分という現状もあります。そこで、地域の住民やボランティア団体、NPO、地域の商店や学校、ご近所など地域で生活する、様々な人や団体がつながり、機能することが鍵だと言われています。その実現のために広島市では①子ども、障がいなどの「属性を問わない相談支援」②支え合い活動への住民の「参加支援」③支え合い「地域づくりに向けた支援」の、3つの支援を一体的に進めていく、「重層的支援体制整備事業」を行っていくことになりました。

では実際に、どのような取り組みが行われていくのでしょうか。広島市では、複雑化した課題を紐解いていくために、情報収集や整理を行い課題の優先順位や、各専門分野別の役割について、地区ごとで担当している保健師と相談支援包括化推進員が中心となり動いていきます。従来の分野ごとではなく、地区をまるごと担当する保健師

が配置されることで、地域住民とも顔が見える関係が構築されます。このことで、地域の情報を把握でき、分野にとられない実情に応じた必要な支援をコーディネートしていただくことができます。地域の実情を把握している保健師と、相談支援包括化推進員とで、課題解決のために支援の方向性を整理したプランを作成します。さらに必要に応じて、前述した福祉サービス、地域団体等の関係者を含めて、情報を共有していきながら支援の輪を構築していきます。

町内会、自治会、地区社会福祉協議会などが連携し、コミュニティの活性化と課題解決に取り組んでいこうとする組織が徐々に生まれつつあります。

さて、私たちひゅーるぼんにおいても地域とのつながり作りの一環として地域食堂「みんなおいでや」を毎月行なっています。さらに、地域の子どもたちに施設を開放し交流する「わくわくきつず」の取り組みも行っています。NPO法人という立場として、顔が見えるつながりを紡いでいくなから、地域みんなで支えあっている輪を広げていきたいと思います。こうした福祉現場にあって「地域共生社会」という言葉について詳しく知らなかったり、具体的にイメージできないスタッフがいるのも現状です。一般の人々においてはなおさらではないでしょうか。共に支えあい生きる「地域共生社会」を実現するために、実際には何が必要なのかさらに次号で考えていきたいと思います。

北棟ギャラリー（広島市中区袋町6-36）どんな作品に出会えるか...♪おたのしみ。



●「夏のボランティアプログラム」が始まります！！

夏休み恒例、学生を対象としたボランティア受け入れを開始します。水遊びや、キャンプ、地域食堂などさまざまな活動を子どもたちと一緒に楽しみながら元気いっぱいの夏を過ごしませんか？詳細は上記QRから。

●子育てサロン

毎週火曜日に子育てサロンを行なっています。ゆるーくお話をしながら、楽しく遊びましょう！室内遊びだけでなく、園庭で砂場やボール遊び、シャボン玉等もしています。また、7月から園庭で水遊びも行う予定です！気軽にお越しください！

●地域食堂「みんなおいでや」

毎月第3土曜日 11時半～なくなり次第終了雨天決行（室内）
大人300円 子ども100円（誕生日の方は無料です。）
あたたかいご飯をご用意してお待ちしております。みんなおいでや～♪

●HPAR2024を開催します

広島市ピースアートプログラム「アート・ルネッサンス」もうすぐです。
会期：9月28日（土）～10月6日（日）
10:30～18:30（初日は11:00～）
会場：合人社ウエディひと・まちプラザ

●ぼんぼんのカフェ再開とギャラリーのお知らせ

長い間お休みしていたカフェですが、7/1～再始動いたします。また、ギャラリーも随時展示していきたくと思っています。
美味しいコーヒーと作品、アートグッズで、皆さんのお越しを心からお待ちしております。
営業日：月～土（水・日祝日を除く）
10:30～16:00



●夏祭り

日時：8月23日（金）（雨天は24日）
場所：ひゅーるぼん 園庭
時間や内容の詳細は、園庭の掲示板またはホームページにてお伝えします。

賛助会員 Hull Fan 年間4,000円
お申し込みは www.hullpong.jp からクレジットカード等もご利用いただけます
私たちの活動はあなたのおこころで！もっとあたたかくやさしくふくらみます！ぜひ私たちを支えてください！
このご寄付は税制上の優遇を受けることができます

佐々木学、山本和也、渡部早栄香、星野翼 匿名11名

●ご寄付

ホウコクホールディングス株式会社、沼田組 仏教婦人会連盟、公益財団法人社会貢献支援財団、阿曾沼武、手島秀昭、桑原正彦、佐々木学、山本和也、渡部早栄香、星野翼、山口道子、今田庸子 匿名2名

●物品のご寄付

- 地域食堂（おいでや）へ
野菜やフルーツ缶など / 野村聡司、志茂洋二、山田剛志、山口翔平、藤木敏彦、妙見和真、三輪田純一、秋田訓宏、飯野智之、門田修、猪飼亮、星野翼、下垣内治登、杉野成実、ジョーダン、瀬尾圭史
活動機材 / 矢野の家（炊飯器）、デンキのナカムラヤ（冷凍庫）
○ 保護者交流会
野菜・アイス・お酒等 / 濱田和季、猪飼亮、瀬尾圭史、門田修、木曾雄太
○ 活動全般へ
お菓子 / 明治ホールディングス、エブリイ 緑井店、魚長、金子涼一、秋田修吾
果物 / 阿曾沼武（みかん）、北田至幸（柿）、濱田和季（みかん）、山田剛志（りんご）
その他 / BOAZ（カレンダー）、大西俊輔（色鉛筆）、秋田修吾（テニスラケット）、芦崎嘉郎（切り絵シート）

（敬称略・順不同）

よく耳にする「共生社会」。しかしこれだけ「個」ばかりを主張する人が増え、社会に疲弊することも多い時代にあって、果たしてひとりひとりにそれを考える心の余裕はあるのかとふと懐疑的になることもあります。しかし、だからこそまずは大人が動いていかなくてはならないのでしょうか。次号もお楽しみに。（A）

think different for happiness
この子らと世に光を
発行：認定NPO法人ひゅーるぼん
発行日：2024/06/20（年2回発行）
ひゅーるぼん会報「うるとのほし」